

虚子記念文学館投句特選句・令和五年七月

稲畑廣太郎 選

一番に訪ひ虚子館の冷房に

新潟 安原 葉

合歓咲いて二階の窓の開きさう

兵庫 玉手のり子

日焼止め虫除けでべたべたの腕

東京 荒川ともゑ

ヨット行く波のでこぼこ乗り越えて

兵庫 池田文子

箱庭にをさまる街や天守より

兵庫 吉村玲子

花合歓の香氣漂ふ夕間暮

兵庫 足立朱麻

子の興味尽きぬ指先含羞草

大阪 谷本房子

空蟬に透ける未来と宿る過去

兵庫 伊集院秀樹

一天の癩癩玉か大夕立

兵庫 岩水ひとみ

虚子館に友と興ずる句座涼し

大阪 津田良恵

# 入選句・令和五年七月

夏風邪や吾が体温の乱高下	大阪	石橋玲子	走り根の気根隆々大夏木	兵庫	高野さち
待つとなく月下美人の夜となる	三重	松村咲子	手際良き祢宜の指図や茅の輪立つ	大阪	杉山千恵子
黒南風や続々届く友訃報	兵庫	森岡喜恵子	花束に百合を加へて大ぶりに	京都	山崎貴子
竹落葉なすすべもなき遊女墓	奈良	山口廣世	師の在すかに満開の合歓の花	石川	辰巳葉流
蟬しぐれ止んで刻の止まる如	大阪	若林友子	六甲の山荘に焚く夏炉かな	香川	真鍋孝子
皆声を潜めて月下美人の夜	三重	池本準一	みな素顔月下美人を前にして	兵庫	高橋純子
夏服や児の両手足よく伸びる	石川	白根寿子	久々に訪ふ虚子館の合歓の花	石川	赤島磨智子
浜の風蔵書一杯夏館	岡山	小幡恒雄	ウインクの仏像の謎子鳥鳴く	兵庫	辻 桂湖
プール開きみんなカップの顔をして	奈良	河村久美子	何もかも迅き移ろひ雲の峰	大阪	林 曜子
夏帽子数へて先生出発す	大阪	立入宮子	骨を切る小気味良き音京の鱧	兵庫	池田雅かず
かはほりの舞ふ夕さりの野球場	兵庫	上岡あきら	君に酔ひヨットに酔ひし日のことを	大阪	須知香代子
大漁旗西日に映えて戻り来る	大阪	大橋明子	襖外し風に息づく大屋敷	大阪	河辺さち子
洗濯に句会買物こなす夏至	大阪	窪田由紀子	寄港地のタラップ降り来サングラス	京都	西村やすし
ことさらに田を青々と磨く梅雨	石川	村上秀吾	ヨット走る大逆風を手のものに	京都	前 悦子
真直なる若き目差青芒	兵庫	齊木富子	蟪蛄や左右に揺れて構へをり	三重	水越晴子
枇杷食めば種のとつりと零るかな	兵庫	小柴智子	夕暮れを緋く咲きゆく金魚かな	千葉	山崎寿仁
一両目の先頭にゐて西日濃し	兵庫	宮本露子	泰山木の花のこぼすや夜の雨	奈良	堀ノ内和夫
片蔭のなき虚子館へ銀の靴	兵庫	川村ひろみ	行基堂二鉢ばかりの白き蓮	奈良	豚々舎休庵
山開のぞむ六甲模糊として	兵庫	黒田千賀子	野仕事の終に所望の氷菓子	京都	杉森大介
六甲の肩に沈みて大西日	兵庫	平田 恵	主なき戸閉づる邸や若竹生ふ	兵庫	日比野 勝
花権一会の縁深む白	兵庫	山之口倫子	ほととぎす廢れ銀山音も無く	兵庫	景山千代子
合歓の花真珠娘の立つ筏	兵庫	柳生清秀	夏座敷傘寿の父を祝ふ子ら	愛媛	星月彩也華
渾身といふ涼しさに虚子学ぶ	岡山	石井宏幸	偲ぶ旅終へ虚子館の冷房に	兵庫	柄川武子
崩れゆく人の寢息や扇風機	兵庫	永沢達明	袱紗にも仄と香水華燭の典	滋賀	近江堇花
雲流れ湿気もありて梅雨あける	大阪	近藤ゆき	健啖の老女三人鰻食ふ	兵庫	高市敦之
天からも地からも優し合歓の花	兵庫	奥田好子	大峯の結界くぐる山開き	兵庫	岡本やすし
無糖加糖アイスコーヒー好き好き	大阪	多田羅紀子	本尊に向かひ不動の水馬	和歌山	中島紀生

今年また美しきと思ふ合歓の花 兵庫 辻田あづき

汗さつと引いて展示の世を巡る 鳥取 椋 則子

走り根の気根隆々大夏木 兵庫 高野さち

手際良き祢宜の指図や茅の輪立つ 大阪 杉山千恵子

花束に百合を加へて大ぶりに 京都 山崎貴子

師の在すかに満開の合歓の花 石川 辰巳葉流

六甲の山荘に焚く夏炉かな 香川 真鍋孝子

みな素顔月下美人を前にして 兵庫 高橋純子

久々に訪ふ虚子館の合歓の花 石川 赤島磨智子

ウインクの仏像の謎子鳥鳴く 兵庫 辻 桂湖

何もかも迅き移ろひ雲の峰 大阪 林 曜子

骨を切る小気味良き音京の鱧 兵庫 池田雅かず

君に酔ひヨットに酔ひし日のことを 大阪 須知香代子

襖外し風に息づく大屋敷 大阪 河辺さち子

寄港地のタラップ降り来サングラス 京都 西村やすし

ヨット走る大逆風を手のものに 京都 前 悦子

蟪蛄や左右に揺れて構へをり 三重 水越晴子

夕暮れを緋く咲きゆく金魚かな 千葉 山崎寿仁

泰山木の花のこぼすや夜の雨 奈良 堀ノ内和夫

行基堂二鉢ばかりの白き蓮 奈良 豚々舎休庵

野仕事の終に所望の氷菓子 京都 杉森大介

主なき戸閉づる邸や若竹生ふ 兵庫 日比野 勝

ほととぎす廢れ銀山音も無く 兵庫 景山千代子

夏座敷傘寿の父を祝ふ子ら 愛媛 星月彩也華

偲ぶ旅終へ虚子館の冷房に 兵庫 柄川武子

袱紗にも仄と香水華燭の典 滋賀 近江堇花

健啖の老女三人鰻食ふ 兵庫 高市敦之

大峯の結界くぐる山開き 兵庫 岡本やすし

本尊に向かひ不動の水馬 和歌山 中島紀生

加賀能登に虚子を語りて生身魂	石川	伊東弥太郎	姫螢森にあまたの針の穴	兵庫	阿曾宏之
夏の夜のかがり火さしく鵜飼舟	奈良	岸野絹代	竹林に見えつ隠れつ僧涼し	埼玉	土井洋子
托鉢の鉢の中にも五月闇	兵庫	福田光博	肌掛けを手繰り寄せたり夜の秋	神奈川	金子三奈乃
夏休み住宅街はハーメルン	兵庫	月あんぬ	炎天の道の向日葵少し泣く	神奈川	斉藤苑子
夏潮を切り裂きすすむ巡視艇	兵庫	武田奈々 (青少年)	涼しさや教へ子の書く汀子論	神奈川	進藤剛至
山鉾を廻す数多のふくらはぎ	兵庫	武田優子			
自動ドア開く向かふに大暑かな	兵庫	太平楽太郎			
かき氷二つの匙で崩しけり	兵庫	恵島祥一朗			
うちは差し男の背中ひきしまる	兵庫	岩鼻絹子			
十のこと五つ忘れて蟬の殻	愛知	牧野郁朗			
芦屋川の水を皆汲む大暑かな	大阪	石川貴也			
庭木深く静かに老ゆや夏館	兵庫	岡本京子			
語りかけくる墨蹟や夏深し	兵庫	松原由布			
合歡の花一刷け頬に紅さして	兵庫	小坂康子			
暑き風街を飲み込む午後一時	兵庫	池田多恵子			
戦禍震災生きし黒松盛夏	兵庫	藤本幸子			
虚子偲び花鳥諷詠夏館	兵庫	田中秀俊			
朱に染まる白鷺一羽夕鏡	神奈川	小林 心			
炎天に身の置きどころなし外出	石川	辰巳昌彦			
並べたる旬の一皿今朝の秋	愛知	小野 薫			
夏の果暗渠流るる虫の翅	神奈川	平野孤舟			
僧形のケーキ選みをり大暑の日	兵庫	キートスばんじょうし			
華やかに寂しさ誘ふ走馬灯	奈良	芳林淳子			
水打つて一日の空気整ひぬ	兵庫	金延峰子			
ウイングフラウヨッホも行きし登山靴	兵庫	三木雅子			
七日教終へて安堵の夕焼空	兵庫	道中義臣			
幽玄の人の道ゆく走馬灯	兵庫	雲山ひまり			
登山バスあへぎあへぎの九十九折	大阪	辻 昌子			
水打てば水掛不動に灯のともる	兵庫	大西美知子			